群馬県立高崎女子高等学校　学校評価一覧表　（令和５年度版）

（別紙様式）

羅針盤			方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 高い進路実現を達成するための、三年間を見通した進路指導を行っていますか。	1 学校は難関大学合格を実現するための組織的な進路サポート体制を確立できていますか。	・難関大学合格に向けた組織的進路サポート体制が確立できていると感じる職員が８０%以上である。	・３年間を見通した難関大対策計画を作成し、職員に提示していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)等で実態を把握する。	A	A	A	・全職員が毎日の学習指導だけでなく、課外、面談、個別添削など様々な役割を担い、熱心に指導を行っている。職員全体の意識は高く協力体制もしっかりしているが、学年ごとに指導方針が異なることがある。職員共通理解のもと、3年間を見通して高女ならではの進路指導を推進していきたい。	難関大合格率で受検する高校を決める中学生も見受けられ，県内女子高トップに期待する親子も多い。
		・難関大学合格に向けての充実したサポートを受けていると感じる生徒が８０%以上である。	・１，２年生を対象とし、３年間を見通した難関大向けサポートを計画、実施する。サポートを受けた生徒を対象としたアンケートにより実態を把握する。	A	A	A	・「よく当てはまる」「当てはまる」と回答した生徒は全体で90%を超えており、進路行事として実施した校内外のプログラムの満足度も高い。次年度はSAHの実施に合わせ、外部と交流する機会を増やすなど、難関大学合格へ向けたサポート体制をより充実したものにしていきたい。	生徒のニーズに応えていると言える。一方で、学生が自分らしい進路を探り実現することが重要であり、評価が「難関大合格」に傾くことに懸念を感じる。
	2 学校は椎樹プランを体系的に位置付け、活用し、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばしていますか。	・体系的に位置付けられた椎樹プランが作成されていると感じる職員が８０%以上である。	・時代に合った椎樹プランを作成し、職員に提示していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)等で実態を把握する。	B	B	B	・椎樹プランの根幹にある生徒一人ひとりの能力を3年間を見通して伸ばしていくという考え方は職員に定着しているが、椎樹プランは作成されてからかなり経っており、社会や大学入試制度の変化に合わせて改訂するべき時期になっている。今年度中に時代に合ったものにつくりかえる予定である。	変化の激しい社会で、人生を切り拓ける主体性を育むカリキュラムやプランがより良いものとなることを望む。
		・椎樹プランを活用し、自らの進路実現に向けて努力していると感じる生徒が８０%以上である。	・進路行事の見直しにより生徒の主体的な活動を重視していく。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	B	B	B	・進路実現に向けて努力する生徒、サポート体制も充実していると感じる生徒は多いが、椎樹プランの認知度そのものが低くなっている。	椎樹プランの認知度が低くなっていることが残念。今後に期待する。
	3 学校は総合型選抜など、新しい入試制度に対応した進路指導を充実させていますか。	・総合型選抜など新しい入試制度を意識した指導を行っていると感じる職員が８０%以上である。	・新しい入試制度を含めた進路情報を生徒と同時に、職員へも提示していく。探究活動との連携も含め、本校の生徒への適切な対応について検討、実施していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。	C	C	C	・今年度は総合型選抜の受験者数が昨年の倍以上に増えた。多くの合格者を出すことができたが、今後ますます受験者が増えると思われ、もっと早期から指導を行う必要がある。低学年から総合型選抜を意識して探究活動に取り組ませ、適切な高大接続を図っていきたい。	特に受験生である3年生からの評価が高く、生徒のニーズを満たす進路指導等の支援が提供できていると考える。
		・総合型選抜など新しい入試制度を理解できている１，２年生が８０%以上である。	・生徒に年間を通した進路指導の中で情報提供をしていく。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	C	C	C	・3年生ではある程度総合型選抜の理解度は高まっているが、低学年では自分事として捉えられていないことが低い理解度の一因と思われる。今後もあらゆる機会を通じて新入試制度について生徒の理解度を高め、総合型選抜で難関大学に挑戦する生徒を増やしたい。	総合型選抜が増えているが、生徒がまだ、自分の問題として捉えられていないのかもしれない。知らせていく必要がある。
Ⅱ 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業を推進していますか。	4 生徒はＩＣＴの活用や生徒同士の対話、発表を通した授業を受けていると感じていますか。	・ＩＣＴを活用した授業を受けていると感じている生徒が８０%以上である。	・互いの授業見学等を通してICTの効果的な活用方法について全ての職員が立案し実践できるようにする。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	A	A	A	・年2回の校内授業公開期間を設け、互いの授業見学等を通してICTの効果的な活用方法について多くの教員が実践できるようになってきた。ＩＣＴを活用した授業を受けていると感じている生徒は９４．１%であった。	小中学校でも思考・判断・表現の力を付けるためのICT活用にシフトしている。高校で更に深い学びにつながる効果的な授業展開をしている数値だと思う。ICTが有効な場面とそうでない場面の使い分けをお願いしたい。
		・生徒同士の対話、発表を通じた授業を受けていると感じている生徒が８０%以上である。	・互いの授業見学等を通して対話、発表を通した授業について全ての職員が立案して実践できるようにする。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	A	A	A	・年2回の校内授業公開期間を設け、互いの授業見学等を通して対話、発表を通した授業について全ての職員が立案して実践できるようになってきた。生徒同士の対話、発表を通じた授業を受けていると感じている生徒は９７．０%であった。	低学年の生徒による評価が高い。実力のついた3年生は、より多くまた深い対話での学びを求めている可能性がある。
	5 生徒による振り返りや観点別評価を重視した授業を推進していますか。	・授業の振り返りにより、自己分析や学習の定着、意欲喚起につながっていると感じる生徒が８０%以上である。	・互いの授業見学や振り返りシートの共有により「振り返り」の効果的な実施方法について全ての職員が計画して実践できるようにする。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	A	A	A	・年2回の校内授業公開期間を設け、互いの授業見学や振り返りシートの共有をし「振り返り」の効果的な実施方法について多くの教員が計画して実践できるようになってきた。授業の振り返りにより、自己分析や学習の定着、意欲喚起につながっていると感じる生徒は８０．６%であった。	多くの生徒で振り返りの習慣がついているのは素晴らしい。
		・観点別評価を重視した授業、評価を行っていると感じる職員が８０%以上である。	・適切な観点別評価について試験作成や評価方法について教科内で情報を共有し、昨年度のものを修正していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。	B	B	B	・適切な観点別評価について試験作成や評価方法について全教員で情報を共有し、検討を重ねてきた。観点別評価を重視した授業、評価を行っていると感じる職員は７２．２%であった。次年度に向けシラバスや年間指導計画にも観点別評価を重視している旨を示したい。	適切な観点別評価を進めていただきたい。
	6 自ら課題を設定し、互いに協力しながら課題を解決する探究学習を推進していますか。	・独自のテーマを設定したり、協働したりして探究活動を進めていると感じる生徒が８０%以上である。	・総合的な探究の時間について生徒の主体的な活動となるものを計画し、実施していく。生徒の「総合的な探究の時間」の自己評価等を利用して実態を把握していく。	A	A	A	・「独自のテーマを設定したり、協働したりして探究活動を進めていると感じる生徒」は100%であった。次年度は，もう少し踏み込んだ質問内容に変えていきたい。例：「課題の解決策を創造できる探究活動を実施できていますか」，「自身の進路と自然に結びつくような探究課題を設定できていますか」など	課題発見力や実行力が低いとされている中、達成状況が良く、探究的な学習の成果だと思う。
Ⅲ 「社会に開かれた教育課程」を充実させていますか。	7 学校での学びを学校内だけに閉じず、外部の教育力を積極的に活用し、社会との接点を充実させていますか。	・探究活動等において公的機関、大学、研究機関、企業への訪問に満足をしている生徒が８０%以上である。	・総合的な探究の時間の活動を中心に生徒が大学、公的機関、研究機関、企業等を訪問する活動を実施していく。生徒の「総合的な探究の時間」の自己評価等を利用して実態を把握していく。	C	C	C	・外部訪問をした生徒は1年生が6割程度，2年生は1割程度である。1年生については，アンケート実施後に訪問している生徒，実施したが振り返りを入力できていない生徒も多く，数字はまだまだ伸びると思われる。実施した生徒の満足度は100%と非常に高い。次年度は1，2年ともに9割以上の実施率を達成すべく，実施体制を整備していきたい。	生徒達は生活全般が忙しく、他へ目を向ける時間つくるのが難しいのではないか。
	8 学校は学校公開、学校評議員会、学校評価等を活用し情報収集に努めていますか。	・授業公開を年１回以上、学校評議員会年２回、学校評価年２回を実施している。	・PTA活動を利用して授業公開を実施していく。学校評議員会は年２回実施し、地域、同窓会、大学、保護者の立場からの情報を収集していく。	A	A	A	・年２回の学校評価アンケートの実施や学校評議員会を年に2回実施し、地域、同窓会、大学、保護者野方から意見をいただくことができた。また、スクールポリシーの策定に当たってはＰＴＡ会長を通してＰＴＡ本部役員の方の意見を聞くことができた。	出された意見を有効に活用して欲しい。
	9 学校はWebページ、学校説明会、各種通信等により情報発信に努めていますか。	・中学生向けの学校説明会を年２回実施し、その参加人数が合計１０００人以上である。	・生徒中心で企画する学校説明会とし、高女の魅力を伝えられるようにする。実態把握は申込数等から把握する。	A	A	A	・生徒主体で企画運営した学校説明会と部活動見学会を実施し、十分に高女の魅力を伝えることができた。2日間の参加人数は２０００人を超えた。	学校への関心の高さがうかがえる結果だと思う。学校説明会、部活動見学会を生徒主体で実施しているのは素晴らしい。
		・Webページにより学校の様子が分かると考える保護者が８０%以上である。	・Ｗｅｂページを早く更新し学校の最新情報を提供する。実態把握は学校評価アンケート(保護者対象)で実施していく。	B	B	B	・本年度よりWebページの更新手順を見直し、レイアウトの改善と内容の充実を試みたが、学校の様子が分かると答えた保護者は７０%程度であった。今後はより組織的に情報発信を進めると同時に、まずは保護者に日頃からWebページに目を向けていただく方策を考えていきたい。	情報があふれている環境なので、ニーズに応じてタイムリーに情報を提供するのはたいへんだと思う。しかし、生徒や教員の頑張りを発信することは学校の理解・協力につながる。
Ⅳ 充実した「カリキュラム・マネジメント」を行っていますか。	10 教職員は将来構想委員会や教員研修等を活用し、すべての教職員で学校の教育活動を定期的に見直していますか。	・学校の教育活動を定期的に見直していると感じる教職員が８０%以上である。	・ＳＡＨに向けた取組を含め、将来構想委員会からの提案を校務委員会を通して全職員に周知し、教育活動の見直しを進めてもらう。また、職員会議や校内研修を利用して全職員が教育活動を見直す場を設ける。実態把握は学校評価アンケート(職員対象)で実施する。	A	A	A	・学校の教育活動を定期的に見直していると考える職員は８３%だった。ＳＡＨの方向性を踏まえたカリキュラムマネジメントを今後も続けていきたい。	新しい取り組みを学校全体で進めて欲しい。
	11 教職員はスクールミッションやスクールポリシー、育てたい資質・能力、グランドデザイン等を検討作成し、それに基づいた教育活動を推進していますか。	・スクールポリシー、グランドデザインの作成に関わり、それを意識した教育活動を考えたり、実施したりした職員が８０%以上である。	・職員からのアンケート、職員会議、職員研修を通して全職員でスクールポリシーを作成し、それを意識した教育活動を展開していく。学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。	B	B	B	・職員からのアンケート、職員会議、職員研修を通して全職員でスクールポリシーを作成し、完成に近づいている。全職員でスクールポリシーを意識した教育活動を見直してきた。スクールポリシーの作成に関わり、それを意識した教育活動を考えたり、実施したりした職員は６１．１%であった。今後はグランドデザインの作成にとりかかりたい。	スクールポリシー作成に全職員が関わっているのは素晴らしい。一方で教員がますます多忙になり、たいへんなのではないか。

群馬県立高崎女子高等学校　学校評価一覧表　（令和５年度版）

（別紙様式）

羅針盤			方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅴ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	12 生徒は「清楚品位」を重んじ、規範意識をもって学校生活を送っていますか。	・ 高女の生徒は規範意識をもって学校生活を送っていると考える生徒、保護者、職員が８０%以上である。	・普段の学校生活の生活指導により生徒の規範意識を高めていく。年度末の学校評価アンケート(生徒、保護者、職員対象)で実態を把握していく。	A	A	A	高女の生徒は規範意識をもって学校生活を送っていると考える生徒、保護者、職員は９１．６%であった。今後、「清楚品位」を重んじながら、服装の規定、校則の見直しを行っていく必要がある。	生徒は真面目である。交通マナーや生活のマナーについても取り入れられたらと思う。
	13 学校は教育相談部やスクールカウンセラーと連携し、組織的なきめ細かい指導に努めていますか。	・ いじめ悩みアンケートを年３回以上実施している。「いじめが疑われる事実」に対し教育相談部またはスクールカウンセラーとの連携が１００%できている。	・生徒が気軽に悩みや相談ができたり、SOSを伝えやすい人間関係の構築に配慮をする。「いじめが疑われる事実」については即座に教育相談部に話が伝わるよう徹底する。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	A	―	A	悩みを相談したり不安を伝えたりできる人間関係構築への配慮があると答えた生徒は約80%であった。今後も、生徒の状況把握を細やかに行うと同時に生徒への情報の周知やアンケートを行ってゆく。	悩みを相談したり、不安を伝えたりできる人間関係の構築について、生徒からの評価が高いと感じる。
Ⅵ 部活動を推進していますか。	14 生徒は勉学と部活動を両立し、たくましく生きる力を育成していますか。	・ 勉学と両立し、充実した部活動に取り組んでいると感じる生徒が部活動入部者の８０%以上である。	・部活動と学習の両立や目標に対して生徒同士が励まし合いながら果敢に取り組める指導を行う。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	B	B	B	勉学と両立し、充実した部活動に取り組んでいると感じる生徒は部活動入部者の７８．３%であった。部活動加入者数９２４名（運動部360文化部564※兼部も含む）生徒のニーズに応じた活動を行うことができるよう、参加や活動内容について柔軟に対応していく。	様々な部活動の活躍が頼もしい。将来のリーダーとして活躍できる人材、社会貢献できる人材を育成するために高い次元の文武両道を推し進めて欲しい。
	15 学校は部活動において適切な休養日を設け、心と体の健康を図っていますか。	・ 少なくとも週１回以上の休養日が設けられていると感じる生徒が部活動入部者の８０%以上である。	・休養日を計画的に組み、生徒に示すとともに生徒の健康や学習活動に配慮した活動を行う。実態把握は学校評価アンケート(生徒対象)で行う。	A	A	A	少なくとも週１回以上の休養日が設けられていると感じる生徒は部活動入部者の９５．０%であった。県の部活動のガイドラインを守る。県のガイドラインに従い、少なくとも週１日以上の休養日を設定し、学校の実態や全体の活動状況を踏まえながら、より適正な対応をしていく。	十分に取り組めている。一部に当てはまらないと答えた生徒が見られるため、部活動が加重にならないように注意が必要だ。
Ⅶ 安全教育の徹底に取り組んでいますか。	16 生徒は交通マナーを遵守し、事故の未然防止に努めていますか。	・ 自転車通学者のうちヘルメットを着用し、安全運転に努めている生徒が１００%である。	・生徒に交通安全への意識を高める指導を繰り返し実施する。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。	B	B	B	自転車通学者のうちヘルメットを着用し、安全運転に努めている生徒は97．９%であった。朝の交通指導の際、ヘルメット未着用者は月に１人いるかいないか程度である。交通事故件数（～12月）は、８件であった。命に関わることでもあるため、交通事故０件を目指して、引き続き安全教育を徹底していく。	交通マナーがしっかりと守られている。
	17 学校は施設の点検・環境整備に努め、安全な学校環境を整備していますか。	・ 安全点検を月１回以上行う。学校の施設は安全だと考える生徒、保護者、職員が８０%以上である。	・安全点検を確実に実施すると同時に危険な箇所について申し出をしてもらう。学校評価アンケート(生徒、保護者、職員対象)で実態を把握していく。	B	C	B	・県の様式に則った職員による学校施設の点検，環境整備は定期的に実施し、安全な学校環境を整備することはできたが、生徒へのアンケートや保護者による学校評価アンケートの結果からは、職員の気づかない「整備を要する箇所」が明らかにされた。次年度以降は職員だけではない、学校の施設点検方法を検討する必要がある。	あまり当てはまらないと答えた生徒が多く、その理由について把握する必要がある。模試の際にも生徒の安全が確認できたほうが安心できる。
Ⅷ グローバル教育を充実させていますか。	18 海外研修や国際交流を促進し、グローバル社会に適応した国際感覚豊かな人材を育成していますか。	・ 高女グローバル研修in USAの参加者40名を確保し、参加した生徒の中で「行って良かった」と考える生徒の割合が８０%以上である。	・業者、職員間の連携を図りながら安全かつ充実した内容とする。Web等を活用し、生徒や職員への成果の周知を図る。実態把握は参加者へのアンケートを実施する。	A	A	A	・40名の生徒が研修に参加して，無事に行うことが出来た。参加者の振り返りについては現在集約中である。また，海外研修での学びを他の生徒にも還元できるような取り組みを実施予定である。	高女グローバル研修が順調にかつ生徒の満足度が高く実施できている。言語活動を体験に繋げることでより、国際感覚が身に付くと思うので、今後の取り組みに期待する。教員の余裕がなくならない配慮も必要。
		・ 上記以外のグローバル人材育成のためのプログラムに満足している生徒が８０%以上である。	・プログラムの見直しに努め、修正をしていく。活動参加者を対象としたアンケートにより実態を把握していく。	B	B	B	・1月に実施予定のプログラムが多く，現時点での評価ができないが，例年通りの実施は行うことができている。	年度が終わるところで振り返り、来年度につなげて欲しい。
Ⅸ SAH指定校の推進に取り組んでいますか。	19 学校は生徒の主体性を尊重し、「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を目指す取り組みに向け進めていますか。	・ SAHの取り組みを理解し、その実現に向けて考え、準備を進めていると考える職員が８０%以上である。	・将来構想委員会、校務委員会、職員会議を連携さえ職員全体で考え、準備を進める。実態把握は学校評価アンケート(職員対象)で実施する。	B	C	B	・ＳＡＨの取り組みを理解し、その実現に向けて考え、準備を進めていると考える職員は５８%だった。今後、SAHコア会議から提案をした内容について、具体的な進め方を学年や分掌で考えて行くような準備を進めていきたい。	SAHで身に付ける力は生涯にわたり生徒を助ける重要な力だが、効果が実感しにくい可能性がある。新たな評価指標を加え生徒自身も周囲も効果を感じられるようになることを期待する。また、スクールポリシーと連動させた理念を検証・分析して本格的な取り組みとし、次年度につなげて欲しい。
Ⅹ 魅力ある学校づくりに取り組んでいますか。	20 生徒は特色ある教育プログラム等により、高女に魅力を感じていますか。	・ 高女が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。	・学校生活全体を通し、生徒の主体的な活動に取り組んでいく。実態把握は学校評価アンケート(生徒対象)で実施する。	A	A	A	・学校生活全体を通し、生徒の主体的な活動に取り組んできた。高女が好きだと感じている生徒の割合は９０．８%であった。今後も高女に魅力を感じる生徒が主体となる特色ある教育プログラムを作っていきたい。	90%を超えていて、目標達成に着実な取り組みができている。生徒にとって魅力ある教育が行えていると感じる。
Ⅺ 教育デジタル化に努めていますか。	21 ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	・ 各種会議においてクロームブックを活用し、ペーパーレス化を進んでいると感じる職員が８０%以上である。	・クロムブックをできるだけ多くの会議で活用していく。学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。	A	A	A	・校内の各種会議においてペーパーレス化を進めていると考えている職員は８０%を超えており、本年度から校務支援システムkinakoを導入したり、職員室の複合機でスキャンしたＰＤＦファイルを直接サーバー内に保存できるようにするなど、ICTを用いた業務改善は着実に進んでいると考えられる。	職員の業務改善につながっていると感じる。